

2020 年度 第 3 回愛知県総合教育会議 議事録

日時：2021 年 2 月 12 日（金）16:30～17:30

場所：愛知県本庁舎 6 階 正庁

【県民文化局長】

ただ今から、2021 年度第 3 回愛知県総合教育会議を始めさせていただきます。

はじめに、大村知事より、挨拶を申し上げます。

【知事】

みなさんこんにちは。愛知県知事の大村です。

本日は、大変お忙しい中、第 3 回愛知県総合教育会議に御出席いただき、ありがとうございます。

本日の会議では、次期「教育振興基本計画」の検討結果を踏まえ、次期「大綱」案について協議していただき、決定してまいりたいと考えております。

さて、教育を取り巻く環境が大きく変化する中、子供たちが時代を生き抜いていくためには、生きる力の基礎となる確かな学力、道徳、倫理性、健やかな体を育成していくことが必要です。

一方で、現在のコロナ禍を始め、どんな事態が生じて、子供たちの学びを保障できる教育体制づくり、ICTを活用した教育、教員の働き方改革などにも、重点的に取り組んでまいります。

このような考えのもと、次期「大綱」を策定し、引き続き愛知の教育の充実を図ってまいりたいと考えております。

教育委員会の皆様方には、忌憚のない御意見をいただきますようお願いをいたしました。私からの御挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【県民文化局長】

本日の出席者につきましては、お手元の名簿と配席図をもって代えさせていただきます。

それでは、ここからの進行は、本会議の招集者であります、大村知事をお願いいたします。

【知事】

それでは議事を進めます。

まず、次期「大綱」案について事務局から説明をいたします。

【県民生活部長】

御説明いたします。

資料1「愛知の教育に関する大綱（2021年度～2025年度）案」でございます。

次期「大綱」の名称、左側の「策定の趣旨」及び右側の「1 大綱の対象期間」のいずれも、前回から変更はございません。

その下の「2 基本理念」と「3 基本的な取組の方向」につきましては、「教育振興基本計画」と共通としておりますが、「教育振興基本計画」に対するパブリック・コメント後も変更はございませんでしたので、前回の会議で御了承いただきました内容のとおりとしたいと存じます。

説明は、以上でございます。

【知事】

はい。それでは、次にパブリック・コメントを経た「基本計画」の最終案について、事務局から説明をお願いします。

【教育委員会事務局長】

次期愛知県教育振興基本計画について、御説明いたします。

資料2の計画の概要を御覧ください。

まず、本計画の名称でございますが、本計画の名称を「あいちの教育ビジョン2025—第四次愛知県教育振興基本計画—」といたしました。これは、現行計画である「あいちの教育ビジョン2020」の理念を継承しつつ、新たな課題等への対応を行いながら、本県教育の更なる振興を図っていくことを示すため、計画の名称につきましても、現行計画を引き継いだものとしていくことが適当であるとの考えに基づくものでございます。

次に、資料2の1ページを御覧ください。こちらには、教育に関する大綱として位置づける「基本理念」及び「基本的な取組の方向」を記載してございますが、先ほどの「大綱」に関する説明にもございましたように、前回の会議で御報告いたしました内容からの変更はございません。

2ページ以降は、計画における30の取組の柱と、その柱ごとの施策の展開について、整理したものでございます。こちらにつきましても、一部、語句の修正等を行った箇所はございますが、中間とりまとめ案の内容と同様でございます。

引き続きまして、資料3、計画の本冊を御覧ください。

こちらにつきましては、昨年12月5日から本年の1月4日までの期間で実施したパブリック・コメントでいただきました、県民の皆様からの57件の御意見や、検討会議の委員などからの御意見を踏まえまして、学校における働き方改革やICT教育を推進するための体制の充実、普通科の活性化やキャリア教育の充実を始めとした高等学校の魅力化など

について、記述の追加や修正を行いました。

また、本計画で掲げる取組を実効性のあるものとするため、PDCAサイクルにより、毎年度、進捗状況を点検・評価してまいりたいと考えておりまして、そのための指標について記載いたしました。

最後に、計画策定後につきましては、計画の内容をリーフレットとして作成し、市町村教育委員会や学校の教職員などに配布し、幅広く周知を図ってまいりたいと考えております。

簡単ではございますが、説明は以上でございます。

【知事】

ただいま、事務局から説明のありましたとおり、「大綱」については、前回の素案と変更はないということでございますので、「大綱」につきましては、事務局案で御異論はないということでよろしいでしょうか。

【教育委員】

異議なし

【知事】

ありがとうございます。それでは、特に御異議なしということでございますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づきまして、次期「愛知の教育に関する大綱」を原案のとおり決定いたします。

また、「基本計画」につきましても、これまで、「大綱」の協議に併せて、検討状況を報告いただいて、本日、最終案について説明をいただきました。

今後は、本日策定した「大綱」と「基本計画」により、教育行政を進めてまいります。

これを踏まえて、愛知の教育の振興に向けたこれからの取組について、「大綱」と「基本計画」をこういう形で進めさせていただくということでございますので、これにつきまして、委員の皆様から御意見をいただきたいと思っております。

それでは、大須賀委員から御発言をお願いします。

【大須賀委員】

私からは、取組の柱の中の、「多様な学びを保障する学校・仕組みづくり」について、三点述べたいと思います。

まず、学校の統廃合の在り方についてでございますが、それぞれの地域で学校の存在価値は同じではないと感じておりまして、特に、都市部と地方とでは違うと思います。非常に歴史がある学校が多くて、当然、生徒数が足らなくなれば統廃合ということはある

のですが、都市部の学校の事情と地方の学校の歴史なども含めた意義、その地域での存在価値というものを勘案していただいて統廃合を進めていただきたいと思いますし、また、視点として、私立と公立で言えば、私立の魅力が上がって公立が落ちている。公立学校の魅力の向上を含めて、公立だからこそできる統廃合を考えていただきたいと思います。

定時制・通信制高校については、従来のニーズと今のニーズは違ってきていると感じています。一つは外国人のニーズ、それから、不登校の生徒のニーズを感じています。学校訪問に行くと、私の持っていた定時制・通信制高校と全くイメージが違いまして、働きながら学びたい外国人の方たちや、夜だからこそ学べるというニーズがあります。グローバル化やデジタル化の必要性が高まることはあっても、無くなることは無いと思います。是非とも、グローバル化やデジタル化に対応した定時制・通信制高校となるようお願いいたします。

知事は、昨年9月に緊急メッセージを出されました。自殺が問題となった時に、知事が記者会見でおっしゃったことを、ユーチューブで見ていた大学生が、感動して考え直したと伝え聞きました。

教育委員全員の意見として、そして、私は、これで最後の総合教育会議となりますので、最後のお願いということで、是非とも、知事に、子供たちへのメッセージをお願いできたらありがたいと思います。

1年間、コロナで大変な中で、いろいろな方々がいろいろな思いで過ごしてこられました。特に小学生の子供たちは、訳も分からないまま1年間を過ごしました。様々な学校行事が無くなったり、課外活動で目指していた大会が無くなったり、そんな中で過ごした子供たちに対して、是非とも、知事の言葉で、「頑張ってくれてありがとう」という言葉をかけていただきたい。子供たちは、まだまだ不安の中で、例えば修学旅行に行けていない学校も相当あると聞いておまして、これからどうなるかは分かりませんが、「不安を乗り越えるのは難しいのは分かっているからね」、「大人もつまずきながら過ごしているんだよ。安心して失敗していいんだよ、大丈夫だよ」といったことを、大人の代表として、話しかけていただきたいと思います。勝手なお願いで申し訳ありませんが、よろしく申し上げます。

【知事】

ありがとうございました。

大須賀委員から、御意見をいただきました。

特に、最後の「子供たちに向けたメッセージ」ということでございますが、本当に、これで、コロナで一斉休校になって。2月27日かな。なんせ、もうこれで1年ということになりますね。

全面再開は、5月25日か。だから、丸っと3か月ですね。

途中、春休み、ゴールデンウィークがあったとしてもですね、昨年度の最後の1か月、それからスタートの2か月がですね、無いと。

それで、夏休みも冬休みも短縮をし、いろいろな学校行事も見直す中で、その窮屈な中で、しかし、やはり、1年の単位といいますか、カリキュラムというか、それは、やっぱりやっていかないと、次の年度に繰り越せませんから。

本当に、学校現場の皆さん、教員さん、そしていろいろな職員さん、PTA、保護者、そして、多くの方々に御努力、頑張ってください、この年度、令和2年度、2020年度も、なんとか終了していくのかなと思います、中でも、一番やはり心を思い悩んできたのは、子供たちだと思いますから、そういう意味では、子供たちに対するメッセージをですね、どのタイミングでということはありませんけれども、確かに、ちょうどこれで、卒業なり、学年切り替わりのこのタイミングというのは、一つのタイミングかと思っておりますので、関係者とよく検討して、どういうメッセージを発出していくか、よく考えたいと思います。

【大須賀委員】

どうもありがとうございます。

【知事】

よろしくお願ひいたします。

そして、学校の統廃合等についてはですね、これから、生徒さんがぐっと減少します。2025年までは、高校生は、ほぼほぼ変わらないなということですが、2025年を過ぎてからぐっと減っていきますので、そういう意味では、やはり学校配置ですね。あまり学年が小さくなると、高校の運営と言いますか、できていきませんので、ある程度の適正な規模感を持ちながら、また、一方で、どうしても子供が減るような、それは過疎地域になるかと思っておりますが、そこが学校が無くなると、地域も弱ってしまうという御意見はもったもてありますので、そこはよく相談しながら、適正な配置を考えていきたいなと思います。

それにつけても、一番は、子供たちのためにと言いますか、生徒ファーストということだと思いますが、第一に考えて取り組んでいきたいと思っております。

そして、定時制・通信制など、時代に応じてですね、いろいろなニーズが出てきますので、臨機応変に対応してやっていきたいと思っております。

今日は、ちょうど午前中に、来年度、新年度の予算の最終発表をいたしました。

小学校は3年生の35人学級、それから高校で言えば、4月から工業高校を全部工科高校に名前を切り替えて、学科再編をやるといったようなこととかですね、様々に取り組んでいくということ、それから理数科を作るということに取り組んでいくこととさせていただきますが、その中で、定時制・通信制も含めてですね、魅力ある、公立高校の魅力アップというものもお触れいただきましたが、学校現場とも相談しながら取り組んでいきたいと

思います。

ありがとうございました。

続きまして、伊藤委員お願いします。

【伊藤委員】

私は、新しい教育ビジョンの基本的な取組の方向の1、「自ら学びに向かう教育を充実させ、自己の可能性を伸ばす力を育みます」の中の、「情報活用能力の育成とICT活用教育の推進」についてお話をいたします。

昨年度、オンラインによる授業が必要になったということ、また、国のGIGAスクール構想があり、2020年度の県立学校の情報化推進事業費は、当初予算で14億5千万円弱、そこに、情報化推進元年としての補正予算を合算しますと99億円になり、非常に充実した年になりました。2020年度は、主にタブレット端末や通信回線などのハードの面の整備が先行しました。そして、2021年度の当初予算でも27億2千400万円余りが計上され、GIGAスクールサポーターの配置などが予定されています。こうした事業は、情報化を進めることが一番の目的ですが、それと同時に、「学びの保障」という側面から見ますと、自然災害時でのオンラインによる授業、あるいは、学びが多様化してきている。先ほど、不登校の問題や、定時制・通信制の話が出ましたけれども、そうしたところに対応したインフラ整備としても進める必要があるものと思います。

今のところ、どちらかと言えば、ハードの整備が先行していますが、今後必要となってくるものとして、子供の心と体、安全を守りながら授業を進めるという実践のノウハウを蓄積していくことがあります。また、ソフトウェアが陳腐化していかないように機器と合わせた更新など、周期的なランニングコストがかかっていくと思います。このビジョンは5か年の中期計画ですが、この5年は、情報化の最初の5年という位置付けであり、この先減ることは無く、継続的に大きくしていかなければならない分野であると確認しておきたいと思います。情報イノベーションの非常に大きな動きがある中で、これまで学校は慎重に対応してきました。社会では情報化がずいぶん進んでいましたが、学校の現場では慎重に対応していたところに、新型コロナウイルス感染症による休校や外出自粛により、急激にICT活用教育の需要が高まりました。今後もこの流れは続いていくと思います。このように継続的な大きな方向性の最初の5年という位置付けで、県として、今後もずっと取り組んでいくという明確な意思を示しながら、長期的な視点での位置づけをお願いしたいと思います。

【知事】

ありがとうございました。

情報活用能力の育成とICT活用教育の推進ということについて、御意見をいただきま

した。

学びの保障、学びの多様化ということですね、また、5か年という、5か年計画ということではありますが、5年経つと世の中変わりますのでね。特にICTの関係は、とにかく日進月歩なので、どんどん変わっていきますので、そういう意味では、そうした状況をしっかり見ながら、踏まえながら、やっていくということが必要だなと思います。

なので、本当を言うと、個人的には、単にタブレットを配っても、3年持たないんじゃないかと思いがね。

今、高校生や子供たちというのは、90何%スマホを持っていますのでね。

スタディサプリも、皆スマホで見ていると言いますからね、高校生はね。

我々は小っちゃくて、「うーん」となっちゃうけど、慣れてるからというのと、やはり、変わりますからね、機能がね、どんどん。

そういう意味では、ICT関連というのは、学校の通信環境の向上だとかソフトコンテンツだとか、そんなものの投資は行政としてしっかりやっていかなければいけないと思いますが、どんどん変わっていきますね。

行政サービスは2、3年で捨てて変えていくという、そんなことはできませんので。

そこも含めて、しっかりと工夫をしていかなければならないことだというふうに思います。

いずれにしても、ICT、デジタルについてですね、これを活用するという時代が、逆戻りすることはありませんのでね、これをいかに活用していくかということも含めてですね、学校現場の皆さんとしっかり共有しながら、対面とオンラインのハイブリットという教育をしっかりと進めていきたいというふうに思います。

また、国のGIGAスクール構想、いろいろ御意見もありますし、私も申し上げましたが、それはそれとして活用しながら、ICT教育の充実を図っていきたいというふうに思っております。

それから何と言ってもですね、デジタル関係というのは、やはり、民間の事業者の皆様が進んでおりますので、民間の事業者の皆様のお力をしっかりいただきながら、取り組んで進めていければというふうに思います。

特に人材ですね。教員さんのデジタル面での資質向上、これは、きちっとやっていきたいというふうに思っております。

今日は、実は、午後一番で万博公園に行って、自動車の自動運転の実証実験を、今年度3回目というのをやってきました。今年度、中部空港で、小型バスで定時走行するのを10月にやりましてね。24時間空港ですから、夜中でも2万人ぐらいいはいますからね。昼間は、4万人はいるので、ぐるぐる回るニーズがありますから。それをやりました。

12月は、西尾市で、西尾の駅から西尾歴史公園まで、市街地の中をレベル4の自動運転で、ジャパントクシーを使って実用化に向けてやりました。

今日は、万博公園の中で、ハンドルもペダルもないコンセプトカーですね。

e-Paletteの変形みたいなやつを、豊田紡織さんが作ったので、乗るのは10分くらいぐるぐる周ったんですが、乗ってる間にキャラクターが出てきてですね、ガラスの壁面で、キャラクターの女の子がコンサートをやるというようなやつを試乗体験してきました。

毎年、ずっと何年も自動運転乗ってますけど、どんどん進歩していくからね。どんどん運転がスムーズになって進歩し、そこに、ICT化が被さってきて、ソフトのコンテンツがどんどん変化する。

そういう意味ではですね、日進月歩のそういったものを、教育内にも取り入れてやっていくということを、我々自身も心掛けてやっていきたいというふうに思いますが、いずれにしても、4月に愛知県庁で、デジタルトランスフォーメーションを進めるDXの部署、DXというのをつくりますので、そこで教育の分野も含めていろいろと提言をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

ありがとうございました。

それでは、次は、佐々委員ですね。よろしくお願ひします。

【佐々委員】

コロナ対応で大変お忙しい中、このような機会を作っていただき、誠にありがとうございます。私の方からは、基本的な取組の方向の7番「大規模災害や感染症拡大等の緊急時においても、子供たちが安心・安全に学べることを保障します」についてお話をしたいと思っております。

先ほどの大須賀委員の話にもありましたが、現在、コロナの影響で、子供たちが、今まで平時には感じ得なかったストレスを抱えて、孤独感や孤立感を感じていて、最悪の場合は、自ら命を絶ってしまうという、悲しい話が多くなっているように感じます。現在のそのような感染症拡大時や大規模災害の際に、そうした子供たちの心のケアをどうしていくのかということが、今後の大きな課題であると感じています。知事は、そのあたりをどのようにお考えになっているのかお聞きしたいと思います。

【知事】

大規模災害、また、感染症拡大ということですね、その中でも、まずは、安全を確保して、安全安心に学べるという環境を確保するということが我々の仕事だと、我々行政、そして大人の役割だというふうに思っております。

今の状況、このコロナ感染症拡大、これは災害と一緒にですからね。

ところで、先般、1月下旬に、私ども、愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部に、いわゆる入院を調整する、調整本部というのを持っているんですけれども、そこに災害医療の専門

家の皆様に入ってもらって、災害医療で、全国で災害があった時に派遣する、また、県内で大規模災害があった際に医療を確保する、そういうDMA Tという、災害派遣医療チームというのを作っているんです。

そこで、次はどここの病院と、どんどんチームを組んで行ってもらうんですけど、その災害医療のチームを本部に入れ込んで、そこで入院調整をするということを始めさせていただきます。

まさに、これだけの大規模な感染が発生して、そして、人間の、人の行動が規制されるというのは、大規模災害と同じだと思っております、それに応じた対応をしっかりやってきたいと思います。

ということなので、まずは、緊急時に学校をどうするかということですが、まずは、子供たちの安全を確保して、やっていくということですが、長期化した場合に、やはり、ICTを活用した教育環境の整備、タブレット端末、インターネット環境の整備、強化。そうしたことと、また、今年度、来年度、新年度もやります、スタディサプリも、予算を確保しましたけれども、そうしたことを含めて、引き続き、こうしたICTを活用したオンラインの授業、学習、これをしっかりとやっていきたいと思います。

それともう一つは、子供たちの心のケアが大事だということで、先ほど大須賀委員も言われましたが、私からのメッセージも、しっかりと考えたいと思いますが、まずは、学校現場で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置して、相談体制を拡充して、児童生徒の心のケアをしっかりとやっていきたいと思います。

また、カウンセリング経験の少ないスクールカウンセラーが、増やしていくとどうしても出てきますので、そうした方に適切な指導・助言を行うスーパーバイザー、そうした方もしっかりと配置をしていきたいというふうに思っています。

また、よく学校現場の皆さんと相談しながら進めていきたい、前進させていきたいと思っています。

【佐々委員】

ありがとうございました。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの拡充、また、スーパーバイザーの配置ということまで御検討いただいております。こうして環境を整えていただいたものを、いかに効果を上げていくのかということについて、私から提案があります。先日、高等学校のPTA連合会との懇談会がありまして、その中で感じたことがあります、子供たちの心のケアとか教育というのは、学校とか先生だけが行うものではなくて、家庭も協力して行うものであると思います。また、ストレスや悩みによって変調をきたす子供たちに、どう接していいのかわからないという保護者の方々も多くみえると思います。そんな中でPTAというのは、私も10年くらい前にやらせていただきましたが、非常に良いネットワークで、子供たちのためならば一肌でも

二肌でも脱ぎますというような人たちの集まりです。そうした人たちとの連携を強化して、こうした時の心のケアはどうしたら良いのかというような相談会や講演会といった、どちらかというところから保護者の方々へ発信していくような取組をしてみてはどうかと思います。そういう仕掛けをPTAの方々と一緒に、力を借りながらやっていくと、行政としてやっていただいた環境整備の効果がより出てくるのではないかと思います。

【知事】

ありがとうございました。

引き続きよろしくお願いいたします。

いただきました御意見、御提言はしっかりと受けさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

続きまして、塩谷委員をお願いします。

【塩谷委員】

言いたいことは、この「教育振興基本計画」にほとんど全て書かれているので、改めて言う必要はないのですが、先日読んだ本の中に、ユダヤ人が1800年以上、武器を持たず自らを守っていたということが書かれており、その時に、何の武器を持っていたのかと言えれば、教育、学ぶという武器を持っていたからこそ、今、ユダヤ人がビジネスで成功しているという内容のものでした。今、ICTによって様々な情報が入ってくる時代で、知事も先ほどおっしゃられていたように、日進月歩変化している。しかし、それを活用するに当たって、やはり教育の基礎というものが、前提としてなされていなければ、それをうまく利用することもできない。そう思うと、小学校と中学校のような小さい頃の教育というものが、絶対に大事になってくると思っています。

もちろん、今は、読み書きもすべてタブレットで学ぶような世の中になってきていますが、人間の五感というものが、段々と衰退していくような気がするんですね。日本人の古来からあるとても大切な文化というものが、段々と失われていくような気がします。紙に鉛筆で書く、その感触だとか、紙の匂いだとか、人間の一番大事な部分が忘れ去られていくことが心配でなりません。

ドラゴンズの根尾選手が「論語と算盤」という渋沢栄一の本を読んでいて、私たちスポーツ選手は、小さいころからスポーツしかやってこなくて、今、私もそう思うのですけれども、もっと勉強してきたら、学ぶことをしてきたら、良かったと思いますし、今、知事とお話をしていても、もっと説得できるような言葉を伝えられるのではないかと思います。後悔しているのですけれども、スポーツをすることも、我慢をすることやセルフコントロールすることを学ぶことができます。そう思うと、やはり、教育は多種多様なことを学ばなければいけないと思います。体を動かすこともそうだし、頭で考えることも、基本的な読

み書き計算もそうですし、食もそうですし、教育は、全ての分野に関わってきます。これから、教師が子供たちに伝えることが、たくさんありすぎて、これが教師の時間外労働に関わってくるのですが、この時期だからこそ、全ての大人たちの力を結集して、未来の子供たちに、全てのことを与えてあげる、教えてあげる、学ばせてあげるという時代が、今だと思います。知事も、コロナ禍の中で経済を立て直したり、大変お忙しいことと思いますが、私は、教育の位置付けというものが一番だと考えているのですが、そのあたりを知事はどのようにお考えでしょうか。また、遅くなりましたが、教育に関しての予算を上げていただき、ありがとうございます。引き続き、よろしく願いいたします。

【知事】

ありがとうございます。

今の、ユダヤ人 1800 年、武器を持たずに教育で子供たちのというのは、確かにおっしゃるとおりだと。大変な民族の迫害の歴史もある中で、世界中にそれぞれのポジションを得て活躍しておられるのは、素晴らしいことだと思います。

ちょっと話がそれますけれども、我々の御縁と言いますか、杉原千畝さんは、岐阜の八百津町ですけれども、7歳から17歳までは、名古屋で学校に通っております。卒業したのが、我が愛知県立瑞陵高校、かつての、戦前の旧制第五中学校を卒業され、6期生で卒業されておられます。その杉原千畝さんの顕彰の像、実物大のブロンズ像とユダヤ人家族3人の、4体のビザを渡している像を2018年の10月に造りました。

それも、学校の正門の隣の駐車場を一部潰して、ポケットパークを造って、パネル展示をやって、誰でも見られるようにいたしましたけれども、イスラエルの大使に来ていただいたり、アメリカのロサンゼルスで、アメリカ最大のユダヤ教のお寺のラバエルという牧師さんに来ていただいたりして。

本当はコロナが無かったら、去年の5月にイスラエルを訪問する予定で全部段取りをしていたんですけれども。

やっぱり世界のスタートアップの拠点なんですよ。

中東のシリコンバレーですね。アメリカの大企業、日本の大手企業もどんどん手柄のように、支店を、人を、事務所を出してますね。

何か良い技術、スタートアップはないかと言ってですね、血眼になって探す。そういう国になっちゃったんですね。やっぱり教育ですよ、教育。

もちろん裕福な御家庭が多いのでしょう。子供の教育にお金をかけてきたというのがあるんですけど、今、イスラエル国家が、どーんと、ちょっとエリート教育が過ぎるという感がありますけれども、その人たちが、やはり世界を動かす技術をですね、どんどん作っていくと。そういう時代になっちゃったんですね。

だから、あれだけ敵対していたアラブ諸国もですね、結局石油がなくなったらやっつい

けない。イスラエルという技術が欲しいということで、国交をどんどん回復しています。

やっぱり、最後は人間の力なんだなと。国の力も、国力も、最後は人間の能力だなと。そういうことを、本当にまざまざと見せられた感があります。

いずれにしても、塩谷委員がおっしゃられたように、人間の能力を引き出す教育をしっかりとやっていかなきゃいけないということを改めて思います。

特に、コロナでですね、この1年間、対面の授業が制限をされて、オンラインでとなると、オンラインでの授業をどういうふうに対応していくか、教える側も、受ける方もですね、それでうーんと差が出てきちゃうような気がするんですね。

なので、それを、そうならないように、しっかりとやっていくことが求められているのかなと思います。引き続きそれはしっかりとやっていきたいと思います。

また、併せてですね、人間の五感が失われるという、そこは大変大事なことだと思います。

いつも申し上げているのは、これからの時代、デジタルにどんどん対応していく人材を育てていく、そういう意味での教育が必要だということと、デジタルの、ITの時代だからこそですね、逆に人間でなければできないことに、もっともっと価値が出てくる。アートとコミュニケーションですね。人と人とのコミュニケーションは人間じゃなきゃできない。それから、芸術文化というのは、人間じゃなければ創れないと。どんなにAIが発展してもですね、人を感動させるものはですね、将来は分かりませんが、今現在はできない。できないということなので、そういう意味では、そういったものを大事にしていかなければならない。教育の面でも、それは必要なんだというふうに思います。

私、今日、万博公園に行きましたけれども、ジブリパークの建設がどんどん進んでいきますので、こういうデジタルのITの時代になればなるほど、私は、ジブリの映画で、全部手で全部です。この間、年末にNHKでやった「アーヤと魔女」は、宮崎吾朗さんが全部CGで創ったアニメですけども、駿監督は全部手描きです。全部手描き。だから、ますます私は価値が出てくると思います。

だから、そういったことは教育でもしっかりとやっていきたいなと思います。

また、引き続きよろしく申し上げます。

続きまして、岡田委員申し上げます。

【岡田委員】

私の方からは、「大規模災害や感染症拡大等の緊急時における学びの保障」と「情報活用能力の育成とICT活用教育の推進」について意見を述べさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、学校現場に大変大きな影響を与えました。全てがこれまでに無い経験でありまして、その対応に右往左往しておりました。今にして思いますと、昨年の3か月間の休業措置というのは、やむを得ない措置だったとは思いますが

ども、あの3か月間の子供たちの学びの保障がどのようになされたのかを考えますと、非常に心もとなく思っています。今、緊急事態宣言下におきまして、「コロナ対策か、経済か」という狭間の中で、大変苦勞をなさっておられるわけですが、「コロナ対策か、教育か」という選択は、私から言いますと、あり得ないことであります。今回の緊急事態宣言では、学校の休業は要請しないという判断でございました。学校現場としても万全の態勢で子供たちを守るということを前提として、学びの保障を確かなものにしていかなければならないと思っています。

コロナウイルスが教育にもたらした最大の変化は、オンライン授業を始めとするICT活用の推進でありました。様々な問題は残されておりますが、緊急時における子供の学力保障のための一つの手段として、その有効性が示されたと思っています。反面、大げさな言い方をするかもしれませんが、学校の存在理由を問われるということもあったのではないかと。もし学校教育が、オンライン授業で全てなされるということが可能であるなら、学校そのものの存在理由は薄れていくのではないかと思います。今一度、教師自らが、学校の存在意義を考え直す、貴重な機会をもらったのではないかと思います。学校現場では、オンライン授業は、あくまで一つの手段であって、全てではないということを、しっかりと認識したうえで、ICTを活用していかなければならないと思っています。

オンライン授業が盛んに行われるようになりまして、GIGAスクール構想も加速度的に進捗していると思われませんが、実際のところ、ICT教育に必要な環境整備が、思うように進んでいないのではないかと、それが現実ではないかと思っています。とりわけ、地域格差が著しくて、教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数が、全国平均で4.9人。これに対して愛知県が6.6人ということで全国46位と立ち遅れております。また、県内におきましても、各市町村間の格差が激しくありまして、その格差是正というのが喫緊の課題だと思っています。その格差の一つに、公立と私立の環境整備に対する意識の格差があるのではないかと思います。私立は、学校と教職員が一体となって推進への取組が可能ですけれども、公立の場合は、語弊があるかもしれませんが、自治体と教育委員会、教職員の思惑が異なっていて整備が進まない、そんな感覚があって整備が進まないのではないかと、今こそ、県の強いリーダーシップと主体性が不可欠であると思っています。

さらに、ICTリテラシーの格差も著しいものがございます。教員の中にも、ICT機器の活用が不得手の者が大勢おります。その本質までを十分に理解するまでに多くの時間が必要になっている。令和元年度の文科省の調査で、教員のICT活用指導力の状況調査があります。例えば、授業にICTを活用して指導する能力、それから、児童生徒にICT活用を指導する能力など、5項目ありますが、その結果が、愛知県は全国で39位から44位であります。ただでさえ、働き方改革が叫ばれている中で、多大な時間と労力をかけて研修に取り組むということができると言えますけれども、早急に取

り組んでいかなければならないと考えております。愛知県がICT教育の先進県になりますよう、ぜひ、知事さんの強いリーダーシップをお願いしたいと思っております。

【知事】

ありがとうございます。

まずは、大規模災害、感染症拡大等の緊急時における学びの保障ということで御意見をいただきました。

先ほども申し上げましたが、おっしゃるとおりでありまして、今の感染症拡大は災害と一緒にだということでもありますので、そういう意味で、まずは、子供たちの安全、安心を確保した上で、対面、オンラインのハイブリッドでしっかりとやっていくということを、また、引き続き、学校現場の皆さんと一緒に、模索をしながら取り組んでいきたいと思っております。

なお、二つありまして、一つは、去年の3か月の休校は、本当によく検証しなければいけません。なぜ、3か月も休校することが必要だったのか、何でこうなったのか。その結果、どのような影響があるかということは、しっかり検証・分析をしてですね、私は、基本的には、二度とああいうことがあってはならないというふうに思います。

皆で関係者で反省しつつ、共通認識にしていかなければならないと思っておりますので、引き続きよく検証し、今後の対策に活かしていきたいと思っております。

そして、その中で、ICT、オンラインは、一番だと思います。やはり、ICTで、今は我々はもう、テレビ会議、Web会議、リモートの会議ばかりですよ。

大きな会議、人が集まるような会議はできるだけ減らしていくということではありますが、リモートで、オンラインで、学習を、授業を受けて、理解してということが、全員が全員できるということはありません。

特に生活の規律のできていない小学校の子供たちが本当にできるかと。これは無理ですよ、基本。なので、そういったことも含めですね、そこは分析、検証、そして対策をしっかりと講じていくということが必要ではないかというふうに思っております。

そして、もう一つ、ICT教育の各市町村の格差ということでございますが、これはやはり、しっかりと見て、対策を取っていきたいというふうに思っております。

そして、教員のITリテラシーの格差、これは、やはり、いろいろな研修を充実させてですね、レベルに応じてステップアップしてもらえようような研修体系を作っていくことだと思います。それをさらにきめ細かくにやるということだと思います。そういったこともしっかりとやっていきたいと思っております。

また、引き続きよろしくお願いたします。

以上、御意見をいただきました。ありがとうございました。

それでは、全体を通して、教育長から発言をいただきたいと思っております。

【教育長】

次期「大綱」、そして教育ビジョンに対して、貴重な御意見をいただき、誠にありがとうございました。

今年度は、コロナというかつてない状況の中で、新しい教育ビジョンを策定してまいりました。検討会議の中で、印象に残った意見がございました。一つは、「コロナが終息しても元には戻れない。新しい学校の在り方を考えていかなければならない」というお話がありました。ICT、デジタル化の流れは止まりませんので、これにしっかりと対応していく。また、緊急時においても学びを止めない、安心・安全な学びの保障というものに、しっかりと取り組んでいかなければならないと強く思っております。

もう一つの意見として記憶に残っておりますのが、「働き方改革は、教育の質を落とすものであってはならない」というものです。仕事を減らした上での働き方改革、在校時間を減らしていく中でも、今までやってきたことを、ちゃんと子供たちと向き合いながら、先生の働き方改革を進めていかなければならないということを強く言われました。今後は、ICTの活用や少人数学級など、先生の負担を減らしながら、子供たちに向き合う時間をしっかりと確保して、進めていかなければならないと思っております。

本日いただきました、高校の魅力化・適正配置、公立高校の改革、変化に対応したICT、さらには、非常時における心のケアを含めた、安心・安全な学びの保障、こうしたことは、新しい教育ビジョンにも多々盛り込んでおります。

新たな「大綱」と新たな教育ビジョンに基づいて、愛知の未来を担う子供たちのために、愛知の教育の力をさらに高められるよう、最大限の努力をしてまいりたいと考えております。引き続き、どうぞよろしく願いいたします。

【知事】

ありがとうございました。ちょうど1時間ということですね。ありがとうございました。

最後に一言感想めいたことを申し上げますが、ITリテラシーと子供たちですけど、これも関係するんだなと思ったんですが、よく言われるのが、愛知県は、小学校の体力測定をやると、小学校6年生の男の子がずっと47位だということでして、46位になったことがあったっけ。だいたい47位で、女の子が45位、それくらいなんですよ。

これは傾向があって、東京だけ結構上なんですけど、40番台というのは、北海道、神奈川、埼玉、愛知、大阪、兵庫、福岡、大都市圏なんですね。

だからと言って、愛知県は国体も上位常連で、私いつもスポーツ王国愛知と言っていますから、あれなんですけど、やっぱり傾向を見ると、どんどん運動やる子と、全くやらない子との二極化するんですね。

やっぱり小学校、中学校の学校教育で、それがあってはいけないので、確かに運動が不

得手、嫌いだという子はいますけど、人間も動物なので、健康に生きていくために、子供のうちから、運動することを習慣づけていくと。ITも一緒だと思うんですよ。ITも好きな子はどんどん能力も上がっていく。嫌いな子は、見るのも触るのも嫌と。ということなんでしょうね。学校教育がそれではいけないので、どうやってその不得手な子を引き上げていくのか。それは、教科で算数とか数学とか理科が嫌いだというのが、昔よくありましたけれども、それと同じかもしれませんが、地道に地道に、その子の特性に応じたカリキュラムをやって引き上げていくということと、丹念に丹念にということかなと思います。

こういうコロナの時代だからこそ、IT、ICTのところにスポットが当たっていると思いますが。これはやっておかないと、これから長い人生を生きていく上において、不可欠だと思いますので、そこはやはり、しっかりとやっていければと思います。

教育委員会の皆様方におかれましては、「大綱」の策定に向けまして、これまでの3回の会議において、有益で貴重な御意見をいただきました。心から御礼申し上げます。

「大綱」と「教育振興基本計画」につきましては、この会議終了後、公表いたします。

今後も、教育委員会との間でこの「大綱」を共有し、連携を取りながら、愛知の教育の更なる充実を図ってまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、これをもって、愛知県総合教育会議を閉会といたします。